



白竜湖全景 西から

(2015年4月9日)



白竜湖全景 北東から (左端の池は残存池塘か)

(2015年4月15日)



白竜湖遠景 東から

(2016年6月8日)



白竜湖遠景 南東から

(2015年4月6日)

序

この度、「白竜湖（2）平成28・29年度 山形県指定天然記念物 白竜湖泥炭形成植物群落調査報告書」を発刊する運びとなりました。本書は、南陽市教育委員会が平成28年、29年の2年にわたり、白竜湖とその周辺の環境と動植物の実態把握のために実施した調査の成果をまとめたものです。

白竜湖は、大谷地と呼ばれる泥炭湿地帯の中に残された開水面です。その特異な地質は古くから知られ、かつて湖周辺には泥炭湿地の植物群落が広がっていました。また、白竜湖にまつわる数々の民話が伝承されており、地域の宝となっております。

平成27年3月20日に“白竜湖 心の原風景を未来へ”が「未来に伝える山形の宝」として登録されました。この登録制度は、文化財を保護し、郷土に対する誇りと愛着を育み、地域活性化や交流の拡大につなげていくことを目的に、山形県が平成25年度に創設したものです。国道13号を山形方面から鳥上坂付近で赤湯方面を見下ろすと、田園風景の中に白竜湖の姿が目に入ります。四季折々の彩りの自然の中にたたずむ白竜湖、この景色が南陽市民にとって心の原風景と言えるものです。

さて、白竜湖一帯の環境については、前回の平成8年度報告書発刊から21年が経過し、総合学術調査としては2回目となる調査を実施しましたが、その結果、自然環境の様々な変化が明らかにされました。この調査結果が、今後の保存・活用の方策の一助となれば幸いです。

最後に、この度の調査において専門的分野を担当いただいた先生方には、心から感謝を申し上げます。

平成30年3月

南陽市教育委員会
教育長 猪野 忠